

## 2023年度業務実績報告書

提出日 2024年 1月 18日

1. 職名・氏名 講師 上木 礼子2. 学位 学位 修士、専門分野 看護学、授与機関 福井大学、授与年 2005年3月

## 3. 教育活動

<b>(1)講義・演習・実験・実習</b>	
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 看護管理（1単位 4年前期集中）	
②内容・ねらい（自由記述） 内容:看護サービスを提供していくための看護管理の概念、看護の提供システム、看護サービスの質保証を学ぶ。質の高い看護サービスを提供するための看護職者の役割を看護管理の視点から考える。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 統合実習の位置づけであり、管理の視点でそれまでの実習等経験を振り返ってみて、理解を拡張してもらうワークを行った。また外部講師として PNS(パートナーシップナーシングシステム)開発に関わった橋先生を迎え、システム発展の背景や特徴についての理解を深めた 【ゲストスピーカー 1名】	
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 健康生活支援演習(1単位 1年前期(分担))	
②内容・ねらい（自由記述） 内容:学習したコミュニケーション技術を踏まえて地域で暮らす高齢者との交流を行い、生活環境や人々がかかえる生活・健康上の問題について理解し看護学を学ぶための基礎力を養う。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） コロナ禍で自粛していた新町ハウスを使用した交流会を再開した。学内より生活者の実感が伝わる環境で学生と高齢者の交流も活発に行えた。 【フィールドワーク 1件】	
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 基礎看護技術（2単位、1年前期（分担）、臨床看護技術（2単位、1年後期（分担）新カリキュラム、基礎看護技術Ⅲ（1単位、2年前期（分担）旧カリキュラム	
②内容・ねらい（自由記述） 内容：基礎看護技術は病床環境の整備と衣生活の援助の項目を担当。臨床看護技術は排泄の項目と呼吸・循環・体温異常の看護を担当した。ねらい：受講生がすでに学習している解剖・生理と関連して、根拠を踏まえた看護技術の基本が理解できる。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） ・ 対面で講義・演習ができたがオンラインへの変更もしやすいよう講義日と演習日にわけて内容を組み立てた。図書館で購入している動画教材を視聴しイメージを付けるよう促した。 ・ 演習は既存のシミュレーターを十分活用でき学生間に不公平が起きないようにプログラムを工夫した。実技テストを設定していたので学習意欲は高く維持できた。 ・ 昨年に続きロールプレイを取り入れ、グループで議論し、患者役と看護師役に分かれて考えたケアを実施するという一連の演習で、思考過程と実践の連携を体験してもらうようにした。	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 基礎看護学実習Ⅰ（1単位、1年後期（分担）・基礎看護学実習Ⅱ（2単位、2年前期（分担） 看護マネジメント実習（2単位、4年前期（分担）	
②内容・ねらい（自由記述） 内容：県内総合病院での臨床看護実習	

<p>ねらい：基礎看護学実習Ⅰでは医療施設、看護師の役割を理解すること、基礎看護学実習Ⅱでは、受け持ち患者に対して看護過程の展開ができること。看護マネジメント実習では病院組織における看護管理とケア提供システムの運営について実際を通して理解すること。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マネジメント実習は6月7月の月上旬に前半2施設、後半2施設で2週間ずつ実施しそれぞれの施設の特徴を学内演習で共有できるよう工夫した。</li> <li>・ 病院施設の感染対策指針にも基づき、実習前行動の注意や体調管理に留意しながら実施した。</li> <li>・ 基礎看護学実習Ⅱは福井赤十字病院での実習を2クール担当。当初、学生の積極性が低いことを指摘受け、受け持ち患者以外にも病棟内で視野を広げていけるよう助言した。</li> <li>・ 基礎看護学実習Ⅰはこの報告書記載時点でまだ実施していないが、感染症予防策に留意しながら、学生が事故なく自立して実習に臨めるように取り組みたい。</li> </ul>
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 卒業研究（3単位、4年次）</p>
<p>②内容・ねらい（自由記述） 内容：看護研究へ自律的に取り組み成果を発表する ねらい：研究の態度、基本的な研究の進め方を実践を通して学ぶ。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他学部の学生への調査依頼など学生の探求したい意欲に添えるように協力した。</li> <li>・ 本年度は基礎領域内で研究発表会を実施できた。調査研究を中心にひととおりの研究過程を学ばせることができたので、目的は達成された。</li> <li>・ できる限り対面での指導をこころがけて、学生の反応を確かめながら進めていった。3名を担送し各自のスケジュールにあわせて進捗を考えていった。</li> </ul>
<p>(2)その他の教育活動</p>
<p>内容 交流会に協力していただいた地元の高齢者グループからは、今後も継続して学生が地域と関わってもらいたいと要望があり学年歴の共有など計画的に関わることで同意した。</p>

#### 4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書	【0本】
②学術論文（査読あり）	【0本】
③ その他論文（査読なし）	【0本】
④ 学会発表等	【0件】
⑤その他の公表実績	【0本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	

(3)特許等取得
(4)学会活動等
日本看護研究学会 近畿・北陸地方会看護研究セミナー委員（令和5年11月25日 第36回セミナー実施）

5. 地域・社会貢献活動

⑤JANPU(一社 日本看護系大学協議会)災害連携教員担当 R5.4～現在に至る

6. 大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
看護学科内 実習検討委員会 2023年度 看護学科1年生・2年生 副担任 2023年度
(3)学内行事への参加
入学時オリエンテーション
(4)その他、自発的活動など
コミュニティ・ナース活動。福井県での提唱者である加藤瑞穂氏とともに地域に溶け込む“看護”活動への参画と、今後の活動展開に関連して大学教員としてのバックサポート体制に繋げるかかわりを継続中。